

ミズナ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	白 さ び 病	根 こ ぶ 病	炭 疽 病	白 斑 病	立 枯 病	リ ゾ ク ト ニ ア 病	ア ブ ラ ミ ウ マ シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	コ ナ ガ 類	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ シ 類	ア オ ム シ 類	ネ キ リ ム シ 類	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ 類	ダ イ コ ン ハ ム シ 類	ヤ サ イ ソ ウ ム シ 類	ケ コ ブ セ ン チ ュ ウ		
タチガレン液	32		*a	1					◎																
ベンレート水	1		14	1		◎	◎																		
アミスター20FL	11		7	2	◎																				
フロンサイド粉	29		*c	1	◎																				
リゾレックス水	14		*a	1					◎																
ダコニール1000FL	M5		*a	1					◎																
ユニフォーム粒	4・11		*e	1	◎																				
スピノエース顆水	5		3	1							◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎								
ジェイエース溶	1B		21	1						◎															
ダイアジノン粒5	1B	*a	1																						
		*b																							
		*d																							
ラグビーMC粒	1B		*c	1																					◎
アディオソ乳	3A		1	3							◎						◎					◎	◎		
アドマイヤーFL	4A	劇	3	2							◎														
ダントツ溶	4A		7	3							◎														
ダントツ粒	4A		*a	1							◎														
プレオFL	UN		1	2									◎			◎									
アフファームエクセラ顆水	6・15		3	3									◎												

*a:播種時 *b:播種時又は定植時 *c:播種前 *d:出芽時 *e:播種前又は定植前

ミズナ

ミズナ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
立枯病	播種時	1. 土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。 ガスタード微粒剤 30kg/10 a 2. 次の薬剤を1㎡あたり3ℓ土壌灌注する。 ダコニール1000(FL) 1000倍	本病はピシウム菌による。
白さび病	播種前または定植前	・ 次の薬剤を全面土壌混和する。 ユニフォーム粒剤 9kg/10 a	露地栽培で発生する。 5～7月と10～12月の雨期に発生が多い。 *非結球アブラナ科葉菜類での登録
	生育期	1. 雨よけ栽培を行う。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 ピシロックフロアブル* 1000倍 ランマンフロアブル* 2000倍	
	収穫後	・ 収穫後の残渣はていねいにとり除き、畑にすきこまない。	
炭疽病	生育期	1. 雨よけ栽培を行う。 2. 発病株はただちに除く。 3. 発病畑周辺の除草を行う。 4. 発生が認められたら次の薬剤を散布する。 ベンレート水和剤 4000倍	露地栽培で発生する。6～10月に雨が続きと多発する。潜伏期間は3～4日でまん延が早い。圃場衛生等、予防に重点をおく。
根こぶ病	播種前または定植前	1. 高畝にする等、圃場、苗床の排水を良好にする。 2. 石灰施用により土壌酸度を矯正する。 3. 播種前に次の薬剤を処理する。 フロンサイド粉剤 全面土壌混和 30kg/10 a	各種アブラナ科作物に発生し、土壤伝染する。 夏から秋にかけて、高温多湿の年、夏まきに多発する。
	生育期	・ 発病株は根、特にこぶを圃場に残さないように早めに処分する。また収穫後、残さはていねいに処分し、畑にすきこまない。	
黒腐病	生育期	1. 雨よけ栽培すると被害は少なくなる。 2. 発病前から次の薬剤を予防的に散布する。 Zボルドー(水)* 500倍	6～7月の梅雨期と9月の秋雨期に発生が多く、収穫間近に急にまん延する。 *野菜類での登録

ミズナ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アブラムシ類	播種時	1. バスライトやバオバオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培では開口部に防虫網を設置する。 2. 次の薬剤のいずれかを播溝土壌混和する。 アルバリン粒剤* 6kg/10a スタークル粒剤* 6kg/10a	*非結球アブラナ科葉菜類での登録
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アディオン乳剤 3000倍 アドマイヤーフロアブル 4000倍 ウララDF* 4000倍 ジェイエース水溶剤 1500倍 モスピラン顆粒水溶剤* 4000倍	*非結球アブラナ科葉菜類での登録
ハモグリバエ類	播種時	・バスライトやバオバオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培では開口部に1mm以下の目合いの防虫網を設置する。	*非結球アブラナ科葉菜類での登録
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アファーム乳剤* 1000~2000倍 スピノエース顆粒水和剤 5000倍	
コナガ	播種時 生育期	1. バスライトやバオバオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培では開口部に防虫網を設置する。 2. 露地栽培ではコナガコン◇を8~10m間隔に支柱を立て、たるまないように畝に平行に100~110m/10a 又は20cmチューブを200本/10a 設置する。施設栽培ではハウス内の天井に近い位置に100~400m/10a (100mリール) となるよう固定する。 3. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 エスマルクDF*1 1000~2000倍 コテツフロアブル*2 2000倍 スピノエース顆粒水和剤 5000倍 プレバソンフロアブル5 *2 2000倍	◇フェロモン剤の使用にあたっては可能な限り広範囲での使用が望ましい。 *1野菜類での登録 *2非結球アブラナ科葉菜類での登録

ミスナ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アオムシ	播種時 生育期	1. パスライトやパオパオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培では開口部に防虫網を設置する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 エスマルクDF*1 1000～2000倍 アフーム乳剤*2 1000～2000倍	*1野菜類での登録 *2非結球アブラナ科葉菜類での登録
ヨトウムシ	播種時	1. パスライトやパオパオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培では開口部に防虫網を設置する。 2. 卵塊で産卵され、若齢期は集団でいるので見つけ次第捕殺する。	5～6月と9～10月の2回発生する。
	生育期	・ 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤*2 1000～2000倍 エコマスターBT*1 1000倍 エスマルクDF*1 1000倍	*1野菜類での登録 *2非結球アブラナ科葉菜類での登録
ハイマダ ラノメイ ガ(ダイコ ンシンク イムシ)	生育期	1. パスライトやパオパオ等の被覆栽培で成虫の飛来を防ぐ。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤*2 1000～2000倍 スピノエース顆粒水和剤 5000倍 チューンアップ顆粒水和剤*1 2000～3000倍	夏が高温乾燥のときに多発する傾向がある。 生育初期に加害されると芯止まりとなる。 *1野菜類での登録 *2非結球アブラナ科葉菜類での登録
キスジノ ミハムシ	生育期	1. パスライトやパオパオ等の被覆栽培で成虫の飛来を防ぐ。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アルバリン顆粒水溶剤* 2000倍 スタークル顆粒水溶剤* 2000倍	*非結球アブラナ科葉菜類での登録
ダイコン ハムシ	生育期	1. パスライトやパオパオ等の被覆栽培で成虫の飛来を防ぐ。 2. 発生を見たら次の薬剤を散布する。 アディオソ乳剤 3000倍	
その他の病害虫		リゾクトニアによるしり腐症、カブラハバチ、クローバーハダニ	